

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Bitcoin	暗号資産の単位	0.00000001 BTC
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発行者は存在せず、マイニング作業に成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として新規発行されたBitcoinが与えられる。</li> <li>・発行上限が約2,100万BTCと決められているために、それ以上発行されることはない。</li> </ul> <p>※マイニング Bitcoinを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたBitcoinと送付手数料が与えられる。</p> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</li> <li>・マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 無</p> <p>③ 発行可能上限 約2,100万BTC</p> <p>④ 総発行量 約1,801万BTC（2019/10/29時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約18兆2,650億円（2019/10/29時点）</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1BTC当たり約101万円（2019/10/29時点）</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		

<p>暗号資産に内在する リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>• サイバー攻撃のリスク 国内の大手交換所がハッキングの攻撃を受けて、不正にBitcoinを盗み取られた事例がある。 香港の取引所で大量のビットコインが不正に出金された事例がある。 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>• 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>• 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>• ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>• 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Ethereum	暗号資産の単位	0.00000001 ETH
暗号資産の主な用途	送金、決済、スマートコントラクト		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発行者は存在せず、Ethereumネットワーク上でのマイニング作業に成功すると新規発行されたEthereumがその成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として与えられる。</li> </ul> <p>※マイニング</p> <p>Ethereumを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたEthereumと送付手数料が与えられる。</p> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ethereumネットワーク内での承認は、プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 無</p> <p>③ 発行可能上限 発行上限なし</p> <p>④ 総発行量 約1億842万ETH（2019/11/5 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約2兆2,053億円（2019/11/5 時点）</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1ETH当たり約20,339円（2019/11/5 時点）</p>		

<p>暗号資産に表示される権利義務の内容</p>	<p>発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。</p>
<p>暗号資産に内在するリスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク Ethereum上のプログラム（スマートコントラクト）のバグ（脆弱性）を攻撃されて、集まったファンド資金3分の1以上を盗み取られた事例がある。 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。 ・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Ethereum Classic	暗号資産の単位	0.00000001 ETC
暗号資産の主な用途	送金、決済、スマートコントラクト		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発行者は存在せず、Ethereum Classicネットワーク上でのマイニング作業に成功すると新規発行されたEthereum Classicがその成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として与えられる。</li> </ul> <p>※マイニング</p> <p>Ethereum Classicを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたEthereum Classicと送付手数料が与えられる。</p> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ethereum Classicネットワーク内での承認は、プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 無</p> <p>③ 発行可能上限 発行上限なし</p> <p>④ 総発行量 約1億1,482万ETC（2019/11/5 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約622億円（2019/11/5 時点）</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1ETC当たり約542円（2019/11/5 時点）</p>		

暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク Ethereum上のプログラム（スマートコントラクト）のバグ（脆弱性）を攻撃されて、集まったファンド資金3分の1以上を盗み取られた事例がある。 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決済完了性がないリスク</li> </ul> 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
その他事項	該当無

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Lisk	暗号資産の単位	0.00000001 LSK
暗号資産の主な用途	送金、決済、スマートコントラクト		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックチェーンの初期の発行分は、プレセールの形で購入者に分配された。</li> <li>・取引の承認者に与えられる報酬として与えられる。</li> <li>・発行上限に達した後は、発行されることはない。</li> </ul> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Liskの取引の承認は、デリゲイティッド（代理性）・プルーフ・オブ・ステークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、選出された代表者により行われる。</li> <li>・代表者は、持ち回りで受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</li> </ul> <p>※デリゲイティッド（代理性）・プルーフ・オブ・ステーク 所持しているLiskに応じて投票し、101人の代表者を決める方式。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 Lisk Foundation（初期の発行分のみ）</p> <p>③ 発行可能上限 発行上限なし</p> <p>④ 総発行量 約1億2,167万LSK（2019/11/25 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約83億3,067万円（2019/11/25 時点）</p> <p>② 一単位あたりの価値 1LSK当たり約68.47円（2019/11/25 時点）</p>		

暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
その他事項	該当無

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Factom	暗号資産の単位	0.00000001 FCT
暗号資産の主な用途	Factomのサービス利用料の支払手段		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス開始時に発行され、プレセールの形で分配された。</li> <li>・マイルストーンに従って発行される額が決まっており、それ以上発行されることはない。</li> </ul> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引の承認はプルーフ・オブ・ステークと呼ばれるコンセンサスアルゴリズムを用いて選出された代表者によって行われる。</li> <li>・受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Factom Foundation</p> <p>③ 発行可能上限 発行上限なし</p> <p>④ 総発行量 約963万FCT (2019/11/15 時点)</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約29億8,387万円 (2019/11/15 時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1FCT当たり約309.67円 (2019/11/15 時点)</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		

<p>暗号資産に内在する リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Ripple	暗号資産の単位	0.00000001 XRP
暗号資産の主な用途	送付（送金）、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法 ・サービス開始時に1,000億XRP発行され、これ以上発行されることはない。</p> <p>③ 認証方法 ・Ripple, Inc. によって承認されたバリデータによって取引の承認作業が行われる。 ・バリデータは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Ripple, Inc.</p> <p>③ 発行可能上限 1,000億XRP</p> <p>④ 総発行量 約432億9,989万XRP（2019/11/18 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約1兆2,394億円（2019/11/18 時点）</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1XRP当たり約28.63円（2019/11/18 時点）</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		

<p>暗号資産に内在する リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク なし</li> <li>・ 51%攻撃リスク 取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	NEM	暗号資産の単位	0.00000001 XEM
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資等		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法 ・最初に発行された約90億XEMがプレセールで分配され、これ以上発行されることはない。</p> <p>③ 認証方法 ・プルーフ・オブ・インポータンスというコンセンサスアルゴリズムを用いて選出された管理者によって、取引が承認される。 ・管理者は、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。 ※プルーフ・オブ・インポータンス Nemの所持量や取引量に応じてスコアをつけ、上位のアカウントにブロック生成の権限を与える仕組み。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 NEM Foundation</p> <p>③ 発行可能上限 約90億XEM</p> <p>④ 総発行量 約90億XEM (2019/11/18 時点)</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約402億6,264万円 (2019/11/18 時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1XEMあたり約4.47円 (2019/11/18 時点)</p>		

暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと恣意的なブロックチェーンの改ざん可能になるリスクがある。</li> </ul>
その他事項	該当無

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Litecoin	暗号資産の単位	0.00000001 LTC
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発行者は存在せず、Litecoinのマイニング作業に成功すると新規発行されたLitecoinがその成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として与えられる。</li> <li>・ また、Litecoinは発行上限が約8,400万LTCと決められているため、それ以上発行されることはない。</li> </ul> <p>※マイニング</p> <p>Litecoinを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬としてLitecoinが与えられる</p> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Litecoin取引の承認は、プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</li> <li>・ マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</li> <li>・ Bitcoinのプログラムコードを元にしてしているため、基本的なシステムは同じであるが、採掘時のアルゴリズム（計算方法）が「SHA-256」ではなく、「Scrypt」である点が異なる。</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 無</p> <p>③ 発行可能上限 約8,400万LTC</p> <p>④ 総発行量 約6,375万LTC（2019/12/02 時点）</p>		

暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約3,210億円 (2019/12/02 時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1LTC当たり約5,035.54円 (2019/12/02 時点)</p>
暗号資産に表示される権利義務の内容	<p>発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。</p>
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
その他事項	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Bitcoin Cash	暗号資産の単位	0.00000001 BCH
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発行者は存在せず、マイニング作業に成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として新規発行されたBitcoin Cashが与えられる。</li> <li>・ 発行上限が約2,100万BCHと決められているために、それ以上発行されることはない。</li> <li>・ 2017/08/01にBitcoinのブロックチェーンが分岐したことによって生まれた暗号資産のため、2017/08/01までに発行されたBitcoinが引継がれている。</li> </ul> <p>※マイニング</p> <p>Bitcoin Cashを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたBitcoin Cashと送付手数料が与えられる。</p> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</li> <li>・ マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 無</p> <p>③ 発行可能上限 約2,100万BCH</p> <p>④ 総発行量 約 1,814万BCH (2019/12/02 時点)</p>		

暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約4,246億円 (2019/12/02 時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1BCH当たり約23,398.88円 (2019/12/02 時点)</p>
暗号資産に表示される権利義務の内容	<p>発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。</p>
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク マイニングの計算能力の過半数を悪意のある特定のグループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
その他事項	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Monacoïn	暗号資産の単位	0.00000001 MONA
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発行者は存在せず、マイニング作業に成功したマイナー（マイニング作業をする人）に報酬として新規発行されたMonacoïnが与えられる。</li> <li>・ 発行上限が約1億500万MONAと決められているために、それ以上発行されることはない。</li> </ul> <p>※マイニング</p> <p>Monacoïnを採掘すること。厳密には掘るのではなく、コンピューターで計算を行い、いち早く正解にたどり着いた人に報酬として新規発行されたMonacoïnと送付手数料が与えられる。</p> <p>③ 認証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プルーフ・オブ・ワークというコンセンサスアルゴリズムを用いて、発行と同様、マイナーにより行われる。</li> <li>・ マイナーは、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</li> </ul>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 無</p> <p>② 発行者の名称 無</p> <p>③ 発行可能上限 約1億510万MONA</p> <p>④ 総発行量 約6,573万MONA（2019/12/02 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約65億3,777万円（2019/12/02 時点）</p> <p>③ 一単元あたりの価値</p>		

	1MONA当たり約99.46円 (2019/12/02 時点)
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク 一定数以上のマイニング計算能力を悪意のある特定グループが保持してしまうと、恣意的なブロックチェーンの改ざんが可能になるリスクがある。</li> </ul>
その他事項	該当無

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Stellar Lumens	暗号資産の単位	0.0000001 XLM
暗号資産の主な用途	個人、中小企業向け送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法 ・サービス開始時に1,000億 XLMが発行されたが2019年10月28日に500億 XLMが焼却（バーン）され、発行総数は500億 XLMとなった。</p> <p>③ 認証方法 ・Stellar Consensus Protocol (SCP) という、Quorum Slicesという信頼できるノードのみを承認者とするコンセンサスアルゴリズムを採用している。 ・信頼できるノード間で66%以上の承認を得た場合新しい取引記録をレジジャーと呼ばれる台帳に記載する作業（Bitcoinのブロック生成に相当）を行う。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Stellar Development Foundation</p> <p>③ 発行可能上限 500億XLM</p> <p>④ 総発行量 約200億5,478万XLM（2019/12/02 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約1,242億6,964万円（2019/12/02 時点）</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1XLM当たり約6.20円（2019/12/02 時点）</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		

<p>暗号資産に内在する リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能又は困難となる可能性がある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク 取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Qtum	暗号資産の単位	0.00000001 QTUM
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法・ ・年1回およそ1%の新しいQTUMが生成されるように決められている。Qtumのプルーフ・オブ・ステーク（POS）コンセンサスアルゴリズムによって当選したブロック生成者に対してQTUMが発行される。 ※プルーフ・オブ・ステーク。 ステーキングによってロックされているQTUMの量に応じてブロック生成者を決める方式。QtumはPOS Version 3を元に改良を加えられている。</p> <p>③ 認証方法 ・ステーキングに参加しているユーザーは、全員のステーク量に対し自身のステーク量が占める割合に応じてブロック生成する機会が与えられる。 ・ブロック生成者は、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Qtum Foundation</p> <p>③ 発行可能上限 発行上限なし</p> <p>④ 総発行量 約1,078万QTUM（2020/02/26 時点）</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約233億342万円（2020/02/26 時点）</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1QTUMあたり約241.71円（2020/02/26 時点）</p>		

<p>暗号資産に表示される権利義務の内容</p>	<p>発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。</p>
<p>暗号資産に内在するリスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク 取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Basic Attention Token	暗号資産の単位	0.00000001 BAT
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 Ethereumネットワーク上に発行されたERC20トークン</p> <p>② 発行方法 2017年5月31日に10億BATのパブリックトークンの販売が行われた。</p> <p>③ 認証方法 認証方法はEthereumに準ずる。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Brave Software, Inc.</p> <p>③ 発行可能上限 15億万BAT</p> <p>④ 総発行量 15億万BAT (2020/6/25時点)</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国内外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約401億円 (2020/6/25時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1BAT当たり約27円 (2020/6/25時点)</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。</li> <li>・決済完了性がないリスク</li> </ul>		

	<p>取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ハードフォークによる分岐リスク</li></ul> <p>ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・51%攻撃リスク</li></ul> <p>取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。</p>
その他事項	該当無

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	IOST	暗号資産の単位	0.00000001 IOST
暗号資産の主な用途	送金、決済、スマートコントラクト		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 ブロックチェーン</p> <p>② 発行方法 年間およそ2%~3%の新しいIOSTが生成されるように決められている。IOSTのProof of Believability (POB) コンセンサスアルゴリズムによって当選したブロック生成者に対してIOSTが発行される。 ※Proof of Believability (POB) IOST独自のコンセンサスアルゴリズム。 投票や貢献度によって各ノード運営者にスコアが設けられており、それによってブロック生成の順番を決める方式。</p> <p>③ 認証方法 ・ステーキングに参加しているブロック生成者は、己の持つ投票数や貢献度の点数 (Believability Score) に応じてブロック生成する機会が与えられる。 ・ブロック生成者は、受信した取引を適正に照合し、承認済みの元帳に未承認の新しい取引記録のブロックをつなげて追加する作業を行う。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Internet of Service Foundation Ltd. (IOS Foundation Ltd.)</p> <p>③ 発行可能上限 約900億IOST (2020/08/18 時点)</p> <p>④ 総発行量 約220億3,972万IOST (2020/08/18 時点)</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約121億2,667万円 (2020/08/18 時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1IOST当たり約0.72円 (2020/08/18 時点)</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		

<p>暗号資産に内在する リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・ サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> <li>・ 流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。</li> <li>・ 決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ 51%攻撃リスク 取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。</li> </ul>
<p>その他事項</p>	<p>該当無</p>

取扱い暗号資産の概要

暗号資産の名称	Enjin Coin	暗号資産の単位	0.00000001 ENJ
暗号資産の主な用途	送金、決済、投資		
暗号資産の保有又は移転の仕組み	<p>① 記録されている財産的価値 Ethereumネットワーク上に発行されたERC20トークン</p> <p>② 発行方法 2017年に以下のように発行 プレセール：4億ENJ クラウドセール：4億ENJ コミュニティ、ベータテスター、マーケティングおよび戦略的パートナーを奨励する会社へ販売：1億ENJ Enjin Pte Ltdとそのアドバイザーに配布：1億ENJ</p> <p>③ 認証方法 認証方法はEthereumに準ずる。</p>		
暗号資産の発行状況	<p>① 発行者の有無 有</p> <p>② 発行者の名称 Enjin Pte Ltd.</p> <p>③ 発行可能上限 10億ENJ (2020/12/25 時点)</p> <p>④ 総発行量 823,130,411ENJ (2020/12/25 時点)</p>		
暗号資産の流通状況	<p>① 売買市場の有無 国外の取引所で扱われている。</p> <p>② 時価総額 約121億7,185万円 (2020/12/25 時点)</p> <p>③ 一単位あたりの価値 1ENJ当たり約14.8円 (2020/12/25 時点)</p>		
暗号資産に表示される権利義務の内容	発行者が保有者に付与する権利、発行者に対して保有者が負う義務はない。		
暗号資産に内在するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値変動リスク 需給バランスや相場状況の変化により、急激に変動する可能性があるほか、価値がゼロになる可能性がある。</li> <li>・サイバー攻撃のリスク 暗号資産は電子的に移動するため、ハッキングなどでウォレットから不正に盗み取られるリスクがある。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流動性リスク 市場動向や取引量等の状況により、取引が不可能若しくは困難となる可能性がある。</li> <li>・決済完了性がないリスク 取引が確定して十分に時間が経過しないと、取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・ハードフォークによる分岐リスク ハードフォークにより暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがある。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無効になるリスクがある。</li> <li>・51%攻撃リスク 取引の承認作業をしているものが不正を働いた場合、取引が覆るリスクがある。</li> </ul>
その他事項	該当無